

各 位

2003年5月8日

株式会社 シンプレクス・テクノロジー

(JASDAQ 4340)

株式会社シンプレクス・テクノロジー 決算概要

前期、連結経常利益 **38.6%**増益！！
来期、連結経常利益 **30.9%**増益見込

金融フロンティア領域でのシステム開発で大幅な増益を達成！

金融フロンティア領域に特化した金融システム開発事業を展開する株式会社シンプレクス・テクノロジー（本社：東京都港区 代表取締役社長：金子英樹 以下シンプレクス）は、2003年3月期（2002年4月～2003年3月）連結経常利益 38.6%増益、2004年3月期（2003年4月～2004年3月）連結経常利益 30.9%増益見込と、好調な業績を示しました。

当社の2003年3月期の連結業績は

連結売上高	20億6千万円（前年同期比 26.4%増）
連結経常利益	4億2千万円（前年同期比 38.6%増）
連結税引後利益	2億3千万円（前年同期比 24.8%増）

となったことを発表いたします。

＊

金融不安による金融機関のIT投資削減の影響により、金融を主要顧客とするソフトウェア各社は、軒並み収益が悪化しておりますが、当社では大幅な増収増益を確保しました

この理由としては、

前期から取り組んでいる営業力強化の成果

昨年から、営業部隊を強化し、営業力強化に取り組んでおります。この結果、新規顧客を多数獲得することができました。（顧客数の推移については、下記）

システムの高度な専門性・独自性への高い評価

当社は、金融フロンティア領域のシステム開発に特化することで当該業務を熟知し、非常に高度な独自ノウハウの蓄積があります。また、システム&業務についての高いコンサルティング能力や、技術力に対する顧客の評価も高く、これらの実績が、顧客に浸透してきた効果が好業績として現われました。

ライブラリ化によるメリットが十分に発揮

当社のビジネスモデルの特徴は、システム受託開発でありながらシステムの著作権を留保することを可能とするビジネスモデルを実現している点にあります。

すなわち、システムの著作権を留保したことで蓄積される共通コンポーネントを「シンプレクス・ライブラリー」として有効活用し、開発の効率化を図っています。このメリットとして、開発コストの削減、開発期間の短縮、システム機能の安定化があげられます。このようなライブラリ化は、高度なノウハウの提供による著作権の獲得とライブラリ化を実現するための高度な技術力が不可欠であるため、ライブラリを所有し有効に活用できている会社は非常に少ないのが現状です。顧客である金融機関のIT投資額が削減されている状況においても、従来型のシステム開発会社の枠組みを超えた当社の競争優位性が十分に発揮されております。

売上は、コンサルティング売上が1億6千万円（前年同期比73.5%増）、受託開発が10億円（前年同期比41.3%増）と大きく伸びています。

また、分野別に見ると、主力のディーリングシステム分野が好調で売上11億3千万円（前期比38.4%増）となりました。金融機関各社の収益力強化方針により投資銀行業務用（すなわちフロンティア領域向け）システムのニーズが強かったことが理由として挙げられます。金融商品の複雑化に伴い、独自性の高いデリバティブや仕組債のシステムが、シティバンク向けなど好調なほか、株式や為替のシステムも同様に好調な伸びを示しています。

また、当期から新規に参入したWEBシステムは、日興コーディアル証券の外貨保証金取引「外為倶楽部」のシステムを販売する等、順調な滑り出しとなっております。

営業力強化により、顧客層の拡大も順調に進んでいます。新規に10社を獲得し、当期の顧客数は29社と厳しい経済環境の中、好調な推移を示しました。

顧客数の推移

(社)

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
証券会社（国内）	1	2	4	7	6	12
証券会社（外資）			2	3	3	2
都市銀行・信託銀行			1	2	1	3
バイサイド		1	1	1	3	4
その他(非金融)			1	4	6	8
合計	1	3	9	17	19	29
うち新規顧客	1	2	6	12	10	10

当期（2004年3月期）につきましては、

連結売上高 26億円 （前年同期比 26.4%増）

連結経常利益 5億5千万円 （前年同期比 30.9%増）

連結当期利益 3億1千万円 （前年同期比 38.1%増）

を計画しております。

金融機関のIT投資削減状況は、引き続き厳しいと想定されますが、金融機関の投資額の削減傾向から、費用対効果を重視する傾向が強まっております。ライブラリを活用することにより、高いコストパフォーマンスを実現している当社のシステムは、さらに引き合いが強くなることが予想されます。また、Webシステムも、引き続き好調を維持すると予想されます。特に外為証拠金取引システムは「多数の引合及び受注が来ている」状況であり、大幅な業績拡大の兆しが見られます。

【 株式会社シンプレクス・テクノロジー 会社概要 】 - JASDAQ 4340

設立	1997年9月
本社	東京都港区虎ノ門4-3-13 秀和神谷町ビル
代表取締役社長	金子 英樹 (39歳)
会社コード	JASDAQ 4340 (2002年2月8日上場)
事業内容	金融機関向けシステム開発
主力開発	JAVA 言語によるオブジェクト指向システムの開発
主力製品	<ul style="list-style-type: none"> ・ディーリングシステム (デリバティブ、債券、株式、為替) ・CRM (Customer Relationship Management) システム ・コールセンターシステム (= @SCENE) ・WEB システム (インターネット証券取引システム = 例; 日興コーディアル証券 外為倶楽部)
資本金	2億6千8百万円 (2003年3月期実績)
連結売上高	20.6億円 (2003年3月期実績)
連結経常利益	4.2億円 (2003年3月期実績)
従業員数	65名 (2003年3月現在)

参考：最近の連結決算の状況 (単位：百万円)

	2001年3月期	2002年3月期	2003年3月期	2004年3月期 (計画)
売上高	1,466	1,632	2,062	2,607
経常利益	302	303	423	551
当期純利益	169	185	231	319
顧客数 (社)	17	19	29	

< 本件に関するマスコミの方のお問い合わせ先 >

(株) シンプレクス・テクノロジー アドミニストレーショングループ 澤田

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 秀和神谷町ビル

TEL 03-5408-3801 Ir@simplex-tech.co.jp

URL <http://www.simplex-tech.co.jp/>